

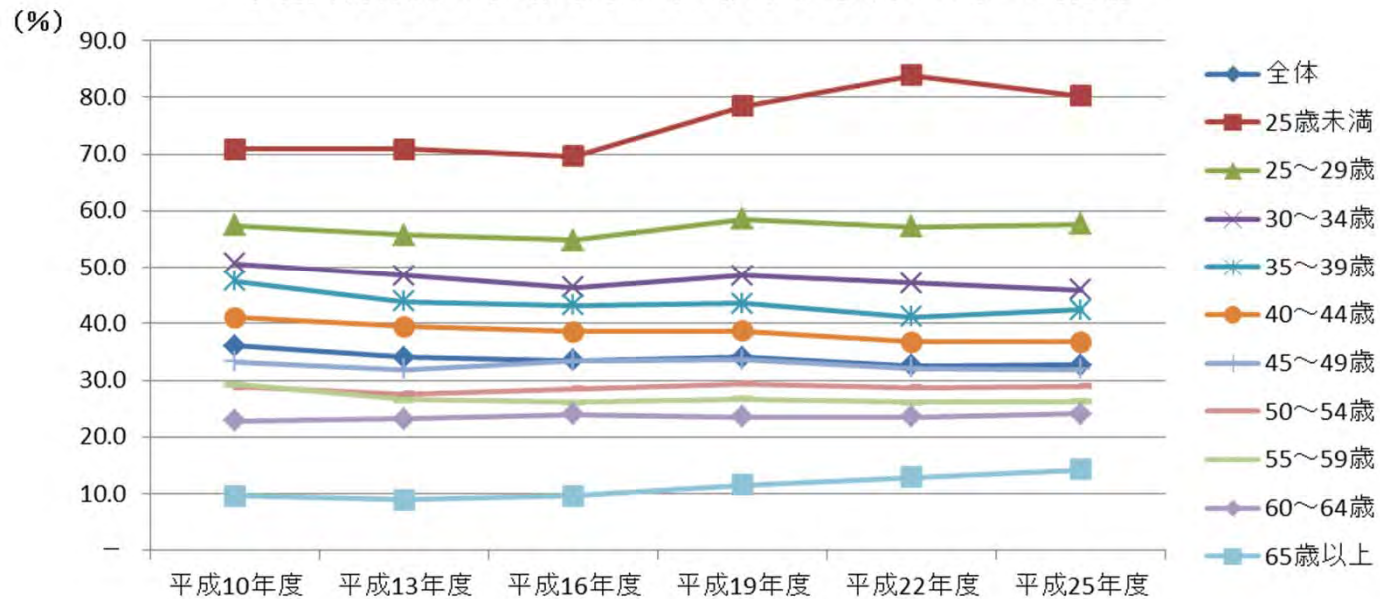
自校出身者比率

Ⅲ. 2. (2) ②

教員の自校出身者比率は、国立大学において、公立、私立より高い傾向が継続している。

国公立大学別教員自校出身者比率					(%)
	平成10年度	平成13年度	平成16年度	平成19年度	平成22年度
国立大学法人	43.0	42.4	42.6	42.9	42.2
公立大学	30.9	25.7	25.1	26.2	26.2
私立大学	31.4	28.7	28.2	29.2	27.5

年齢層別大学教員の自校出身者比率の推移

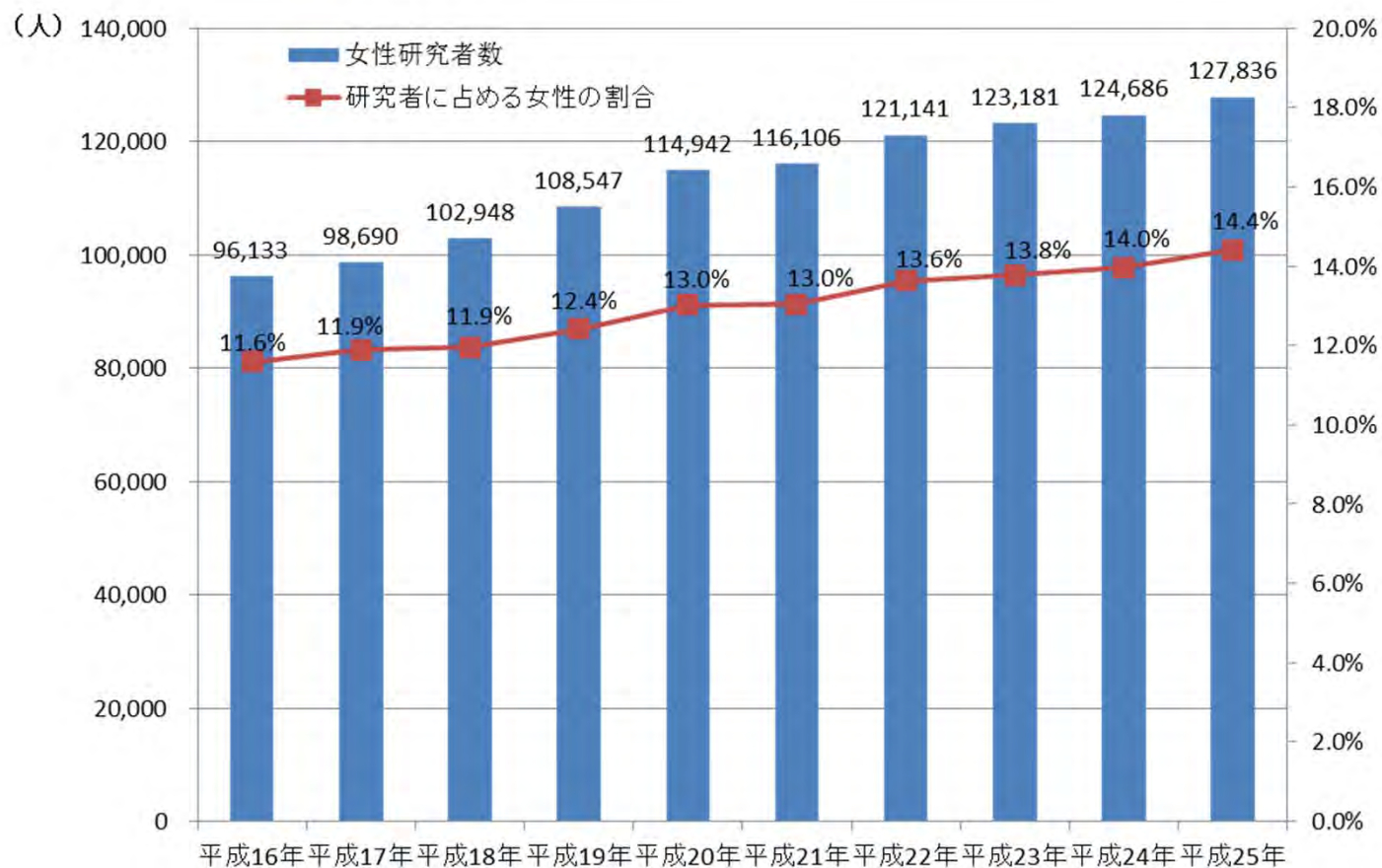


※平成25年度は中間報告

女性研究者数の推移

Ⅲ. 2. (2) ③

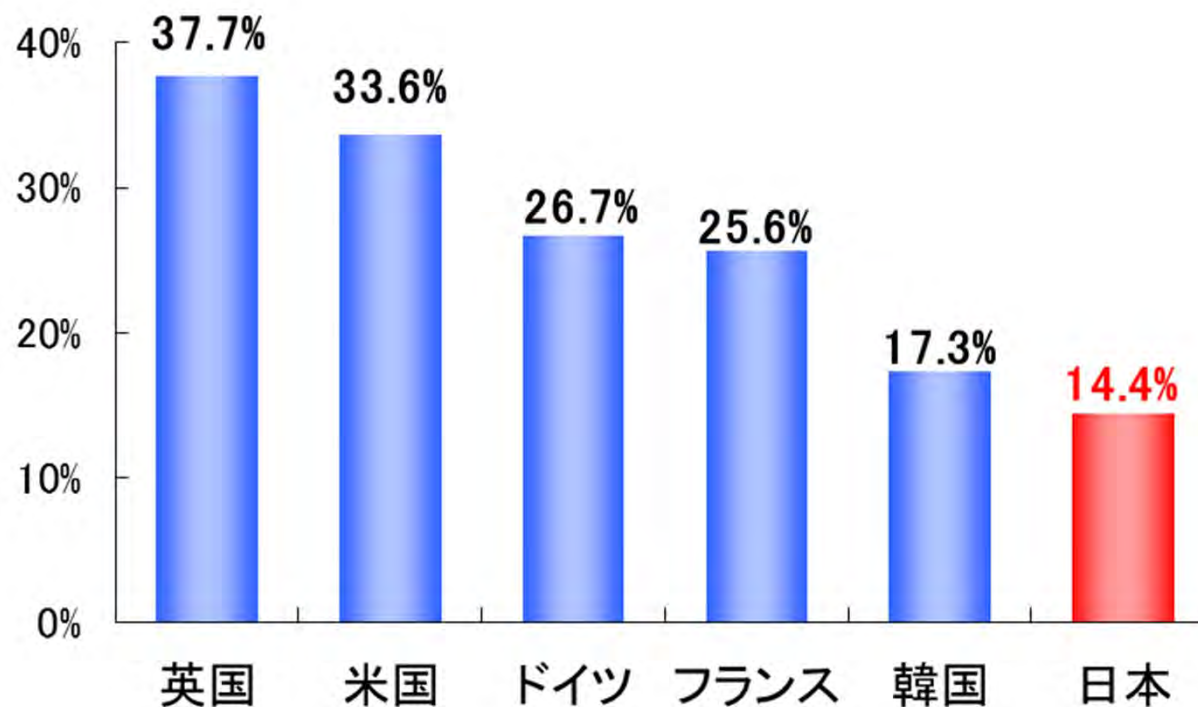
総務省の科学技術研究調査によると、女性研究者の数は、平成16年（約96,100人(11.6%)）、19年（約108,500人(12.4%)）、22年（約121,100人(13.6%)）、25年（約127,800人(14.4%)）であり、増加傾向にある。



各国における女性研究者の割合

Ⅲ. 2. (2) ③

主要国の産業界も含めた研究者全体に占める女性の割合は、英国(37.7%)を筆頭に、米国(33.6%)、ドイツ(26.7%)、フランス(25.6%)と20%を超えている。日本(14.4%)はこれら主要国との差が大きく、韓国(17.3%)よりも下回っている。



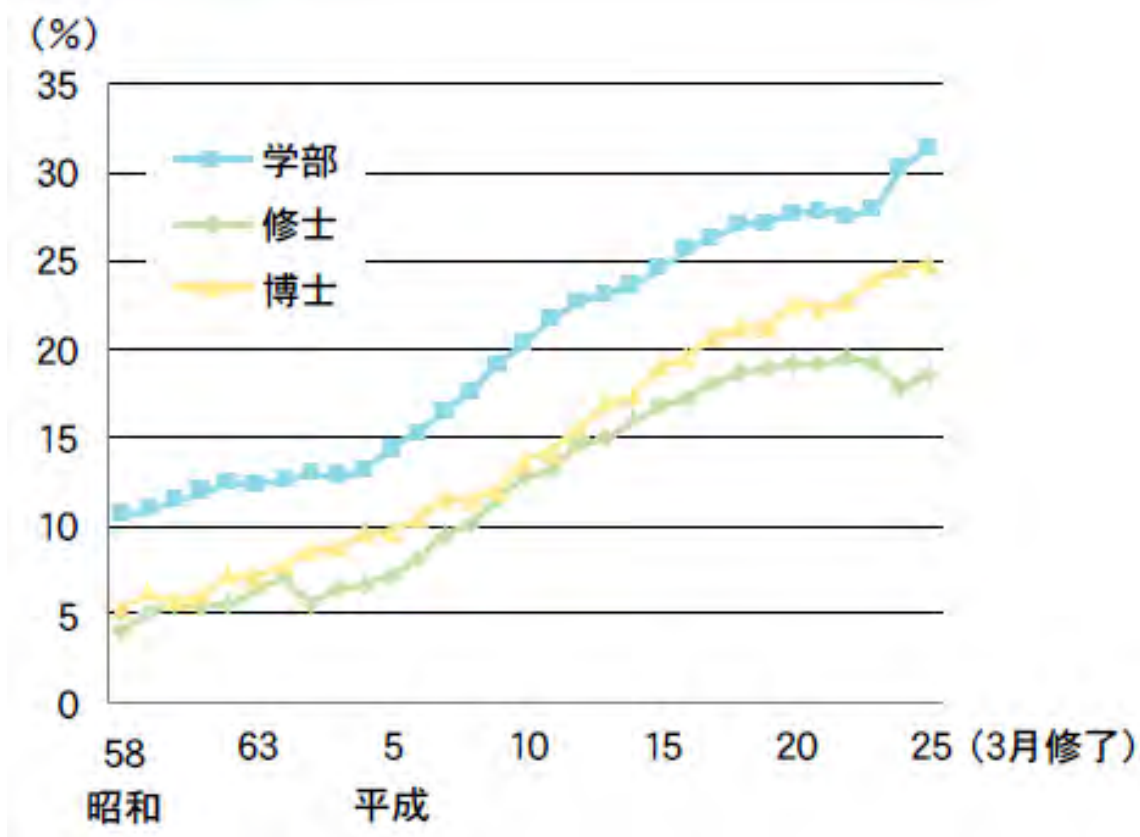
※米国は2010年(平成22年)時点、英国、ドイツ、フランス、韓国は2011年(平成23年)時点、日本は2013年(平成25年)時点のデータ。
※米国については、研究者ではなく、科学専門職(科学工学の学士レベル以上を保有し、科学に関する専門的職業に従事している者。ただし、科学には社会科学を含む)を対象としている。

出典：文部科学省 科学技術・学術審議会 総合政策特別委員会（第1回）H26.7 資料8
（総務省「科学技術研究調査報告」、OECD “Main Science and Technology Indicators”、
NSF “Science and Engineering Indicators 2014” をもとに文部科学省作成）

自然科学分野（理学・工学・農学・保健）を専攻する女子学生の割合

Ⅲ. 2. (2) ③

自然科学分野（理学、工学、農学、保健）を専攻する女子学生の割合は年々増加傾向にあり、平成25年度の学部卒業者、修士及び博士課程修了者に占める女子学生の割合は、学部(31.4%)、修士(18.6%)、博士(24.8%)となっている。



セクター別女性研究者割合

Ⅲ. 2. (2) ③

セクター別の女性の割合は、各セクターとも微増しているが、企業で低く、大学等で高い傾向が継続している。

